



竹の子

校長室だより

(児童数配付)

令和5年9月8日



新山小学校の池には、たくさんの生き物がいます。

春先に池の中にいた、ヤゴが今はトンボとなって元気に池の周りを飛んでいます。よく見ていると、腹の端を池の中に入れている姿を見かけます。卵を産んでいる姿です。いずれ、その卵がかえり、ヤゴとなって新たなトンボとなって大空に飛び立っていくのだと思います。

また、昨年度末には、2cmほどだった金魚も大きくなり、今では、10cmほどになっているものも見かけます。その中に、小さな金魚も見つけることができます。この夏に生まれた金魚だと思います。

このように池の中では、たくさんの命が育ち、旅立ち、また生まれています。命のすばらしさを感じます。



先日、インターネットで、「いのちをつなぐ手紙」というのを見つけました。浜松市精神保健福祉センターが、平成21年度より市内の小学校5年生から募集しているものです。小学生が命と向き合ったときの思いが、とても素直に書かれていました。その中の一つを紹介します。

命のプレゼント

命って何だと思いますか。人の体は、水やタンパク質、脂質から出来ています。けれど、それらの物質を集めても、決して人間にはなりません。命は工場などで人間が作るものではないと思います。考えてみると、私の命は母と父がいなければ生まれなかったはずです。だとしたら、命は自分から作るのではなく、与えられたものだと分かります。

私は自分の名前が気に入っています。私のこの名前は両親からもらった、最初で最高のプレゼントだと思っていました。しかし、考えてみれば命こそ、親からもらった最初のプレゼントだと思うようになりました。命も名前も、自分で作りだしたものではありません。与えられたものだと分かりました。

命は物質を集めても生まれないと書いたけれど、人の命には、心が宿っていると思います。心がなければ、命ではないのかもしれませんが、では、心はどうやって育つのでしょうか。私は、小説を読んだり映画を見たりすると、とても感動します。先生にほめられたり、友達にはげまされたりすると心が動きます。本や映画や人の言葉で、心がゆさぶられます。心は言葉によって育つのでしょうか。しかし、生まれたばかりの私は、言葉を知らなかったはずです。そんな私に、両親はいっしょに笑ったりいっしょに泣いたり、本を読んでくれたりしました。いっしょに過ごしたことで私の心が成長したのだと思います。私の命や名前を与えてくれ、心を育ててくれた両親に感謝しています。

命は親から与えられたもので自分で生みだしたものではないけれど、その命を輝かせるのは自分しだいだと思います。自分の命や名前をより素晴らしいものにするために、親への感謝を忘れずに、精いっぱい生きていきたいと思います。